

とやまの教育史料

青い目の人形展

偏見と分断を越えて



どりーむくん

期 間： 令和4年 6月15日(水)～7月3日(日)

会 場： 富山県教育記念館 1階ギャラリー

開館時間： 午前9時～午後5時 (入館は4時半まで)

- 主催：(公財) 富山県ひとづくり財団・富山県教育記念館 -

◆新型コロナウイルス感染症拡大予防(お願い)

1. マスクの着用、入館時の手指の消毒
2. 適切な間隔の確保
3. 発熱・咳など風邪症状のある場合の来館自粛

「とやまの教育史料 青い目の人形展」

～ 偏見と分断を越えて～



「青い目の人形」は、今からちょうど95年前の昭和2年（1927）、アメリカ合衆国から日本の子供たちへ贈られた「友好の人形使節」です。日本全体で12,739体、富山県内へは150体が届けられ、各小学校・幼稚園では子供たちの歓迎会が行われました。

第一次世界大戦終結（1919）後、国際社会では世界平和や民族自決を求める機運が高まり、国際協調が進みましたが、大戦景気の反動で経済活動が落ち込み深刻化すると列強間の植民地分割が再び起こり、東アジアでは満州（中国東北部）をめぐる日米間の競争・対立が生じるようになりました。

そうした日米の関係悪化を心配し、子供の世代からの国際交流を重視して、『世界の平和は子供から』をスローガンに計画された草の根の友好親善活動、それが「青い目の人形」だったのです。

しかし、昭和16年（1941）太平洋戦争が始まると、敵国の人形として壊され焼かれる運命をたどりました。現在、戦禍をくぐり抜け、存在が確認されている人形は県内で7体とごくわずかですが、平和の尊さを語り継ぐ史料として各学校等で大切に保管されています。

今日、世界では、グローバル化や高度情報化による相互依存が急速に進む一方、各地で偏見や分断が深刻化し、資源・エネルギーの獲得競争や民族・宗教等に端を発する紛争・戦争が勢いを増す危機的状況にあります。改めて、多様性を認め合う社会や国際平和を希求する声が高まる今、「青い目の人形」に込められた先人たちの願いに思いをめぐらせ、その意義を語り伝えていくことは、21世紀のよりよい世界を創り出す上で、私たちにとって、そして子供たちにとって大切なことと考えます。「とやまの教育史料に学ぶ」、どうぞご覧ください

〔県内に残る7体〕



メリー・ブラウン
(富山市立三成小学校蔵)



ベティ・ロー
(富山市立水橋西部小学校蔵)



エリザベス・ギルド
(富山市立水橋中部小学校蔵)



名前不明
(富山市 竹川信也氏蔵)



ステファン・パルマー
(社会福祉法人伏木保育園蔵)



メリー
(砺波市立鷹栖小学校蔵)



ヘレンエリザベス・ブラウン
(高岡市立伏木小学校〔弊館〕蔵)

